

北海道の小規模校における遠隔教育特例校制度を含めたオンラインの活用

内 容

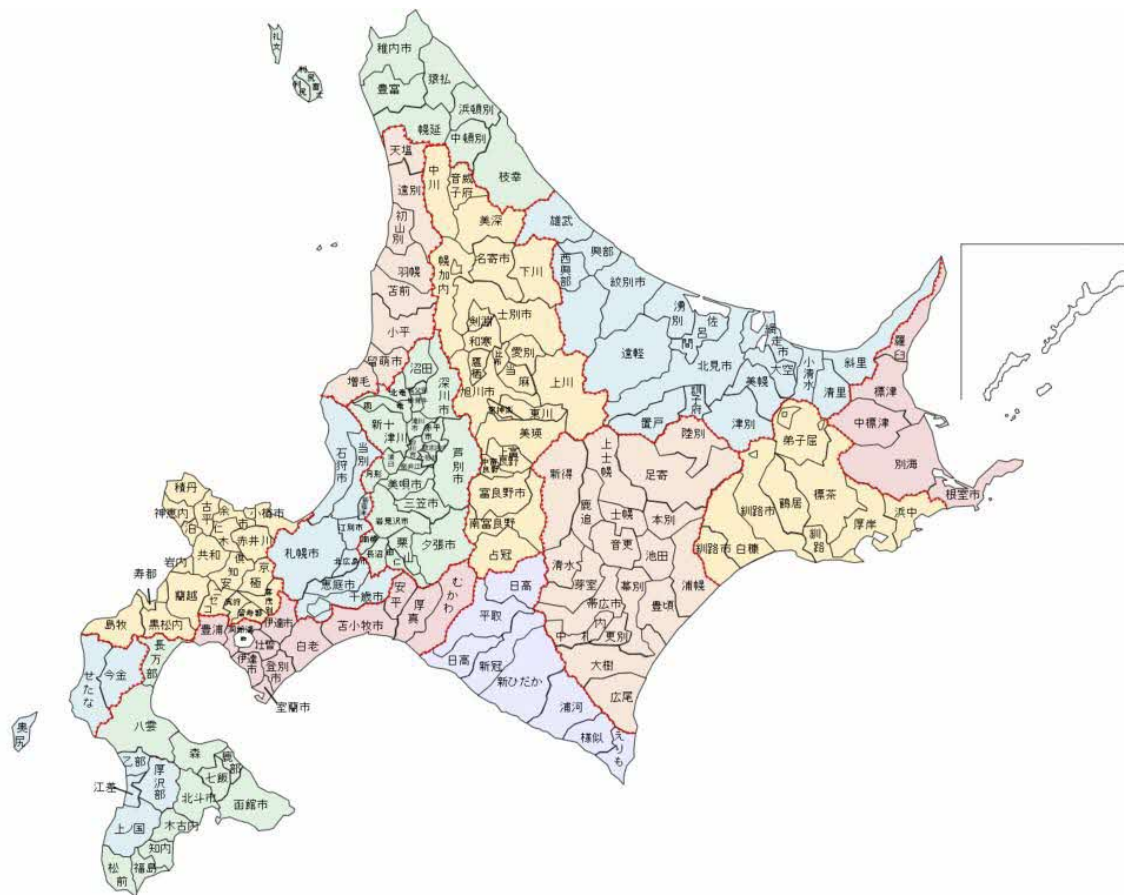
- 1 本道の現状
- 2 本道の課題
- 3 道内の実践
 - ・幌延町（遠隔教育特例校）
 - ・その他の市町村
- 4 今後の展望

令和5年8月24日(木)

義務教育の在り方ワーキンググループ

1 本道の現状 ①

地理的特性等



▶ 地理的特性

広域分散型

▶ エリア（行政）区分

14 区分

▶ 自治体（市町村）数

179 市町村

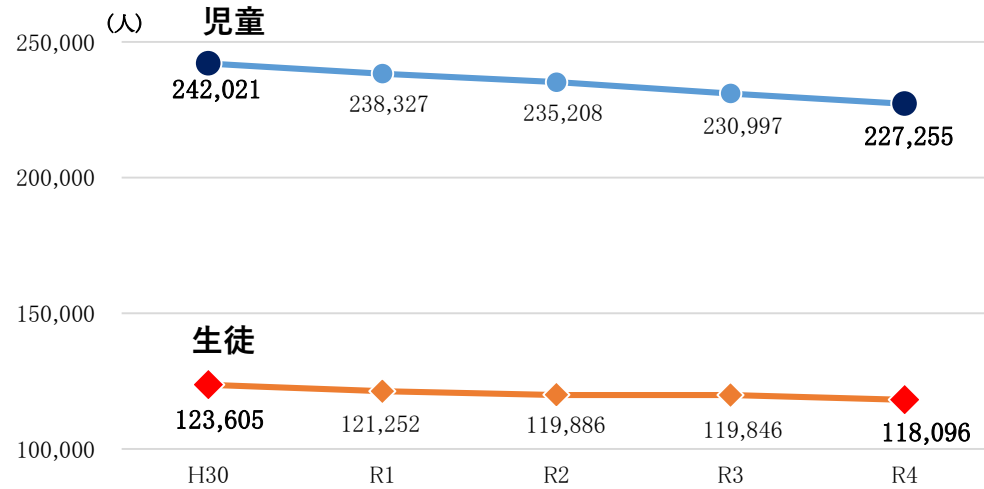
▶ 人口密度

67.4 人/km²

※全国で最も小さい

1 本道の現状 ②

児童生徒数の推移 (H30~R4)



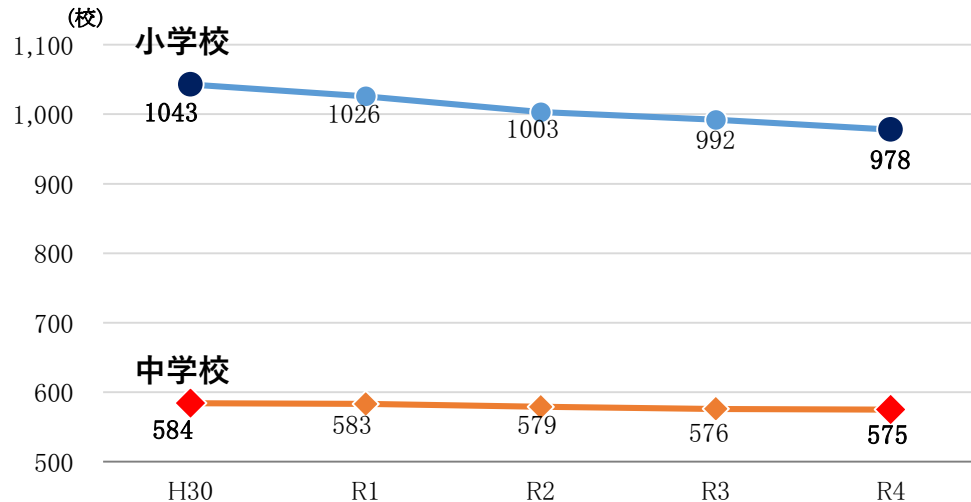
▶ **児童 14,766 人 減少**

※公立小学校、義務教育学校前期課程

▶ **生徒 5,509 人 減少**

※公立中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程

公立学校数の推移 (H30~R4)



▶ **小学校 65 校 減少**

※公立小学校、義務教育学校前期課程

▶ **中学校 9 校 減少**

※公立中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程

2 本道の課題

- 少子化や過疎化が更に進行
- 小規模校・複式学級を有する学校が多数

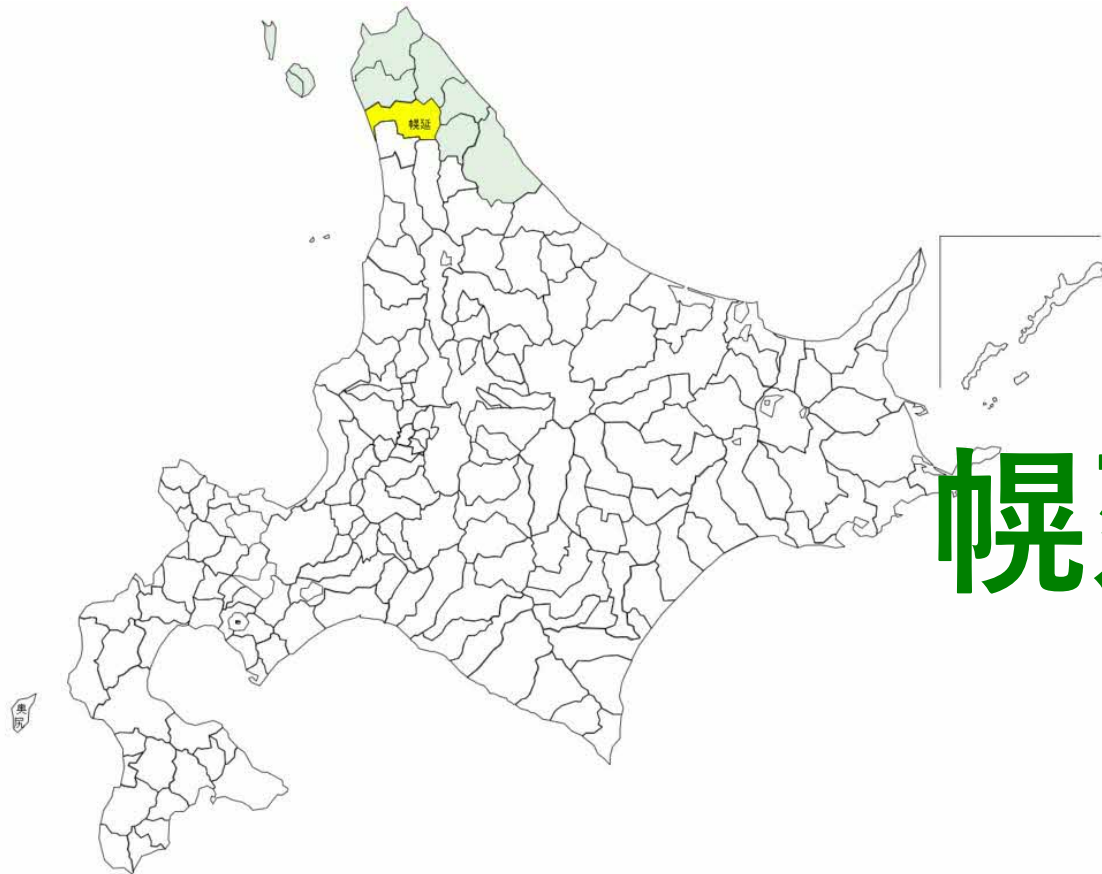
=メリット=
個別指導が
行いやすいなど

小規模校

=デメリット=
社会性の育成に
制約が発生するなど

教育の機会均等や水準の維持・向上

I C T を活用した遠隔教育の推進が必要



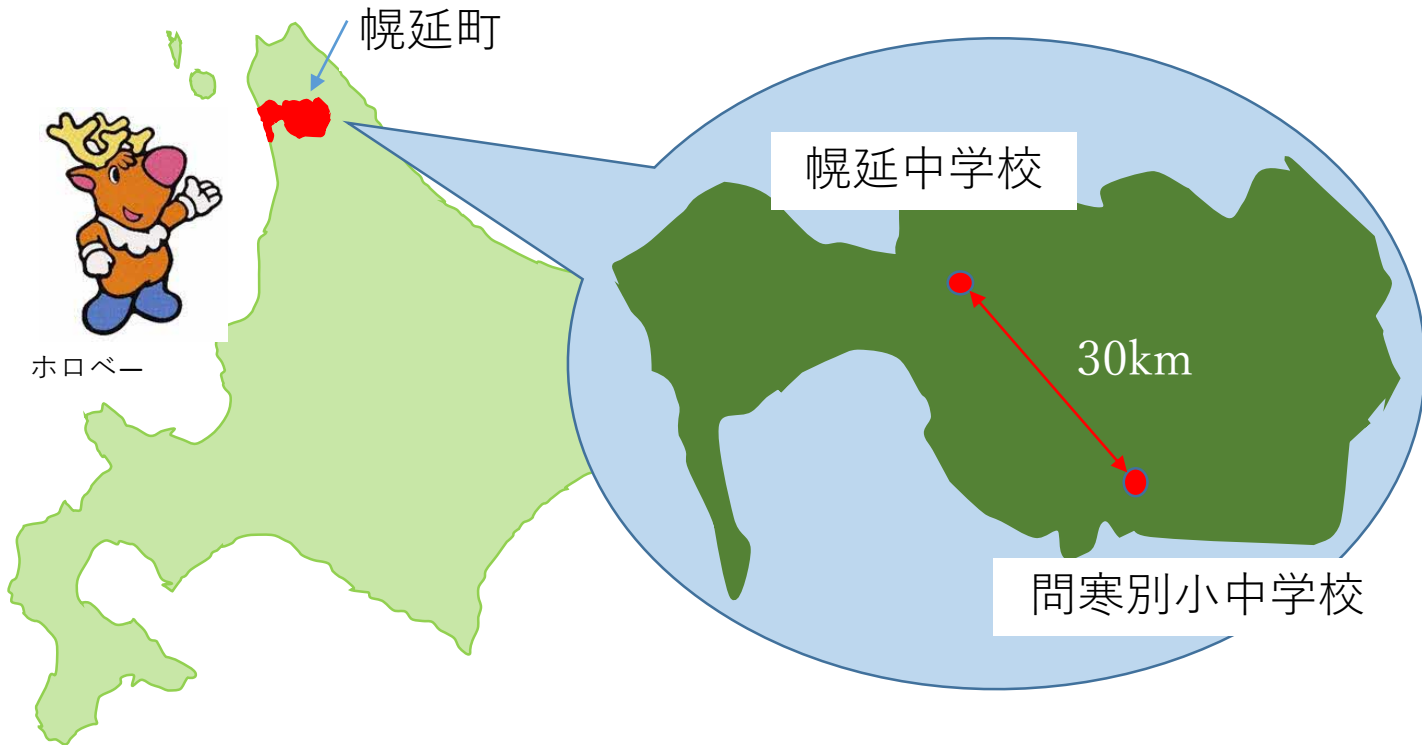
幌延町の実践

幌延町教育目標

持続可能な社会の創り手となる子ども

～自律・尊重・協働～

令和5年4月1日改定



北海道の北部に位置し、北緯45度線上にある人口2,140人（2023年06月末日現在）の町。町内の学校は、幌延小学校と幌延中学校、そしておよそ30km離れた問寒別小中学校（小中併置校）の3校。

児童生徒数は幌延小学校96名、幌延中学校52名、問寒別小学校12名、問寒別中学校3名。基幹産業は、第一次産業としての牛乳生産を主体とした酪農業。

トナカイを観光資源にした「トナカイ観光牧場」があり、クリスマスのサンタとともにアイドルであるトナカイと遊べます。

幻の花「青いケシ」が見られる“北方圏の花園”が牧場内にあります。



ブルピー

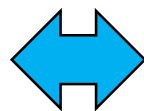
幌延町における遠隔教育の実施状況①

年度	問中教員数	通年実施教科	備考
H29	4	数学	免許外教科担任を支援する遠隔授業
H30	4	社会	免許外教科担任を支援する遠隔授業
R1	7	社会	免許外教科担任を支援する遠隔授業 (遠隔教育システム導入実証研究事業)
R2	4	社会	免許外教科担任を支援する遠隔授業 (新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業)
R3	3	社会、英語、道徳	遠隔教育特例校制度 (受信校：問中、配信校：幌中)
R4	4	社会、英語、道徳	遠隔教育特例校制度 (受信校：問中、配信校：幌中)
R5	4	理科、英語、道徳	遠隔教育特例校制度 (受信校：問中、配信校：幌中)

通年での遠隔授業の他、月1～2回、対面での合同授業を実施している。

その他、小学校道徳の合同授業や合同行事前の事前交流、中学校国語の合同授業などで幌延地区と問寒別地区の学校の遠隔教育を日常的に実施している。

幌延町における遠隔教育の実施状況②



TV会議システム



配信校（幌延中）

受信校（問寒別中）



Chromebook（Meet）

学校情報 (受信校：問寒別中学校)

全校生徒	3名
学級数	通常学級 1 特別支援学級 2 (知・情)
教職員	3名 (国語、社会・美術、数学)
年齢構成	40代 1名、30代 1名、20代 1名
勤務校数	1校目 1名、2校目 1名、3校目以上 1名 ・ 「遠隔教育特例校制度」指定校 (令和3年～)



学校情報 (配信校：幌延中学校)

全校生徒 52名

学級数 通常学級 3

特別支援学級 2 (知・情)

教職員 15名 (うち教員 14名、事務官 1名)

年齢構成 50代以上 4名、40代 1名、30代 6名、20代 4名

勤務校数 1校目 4名、2校目 4名、3校目以上 7名

- ・ 道教委「働き方改革推進事業」推進校 (令和3年～)
- ・ 文科省「人権教育研究指定校事業」指定校 (令和4年～)



取組の概要（令和5年度：英語科、理科、道徳科）

【配信校】

幌延中学校（本務校）



3年A組



A 教諭
(幌延中学校専科教諭等)

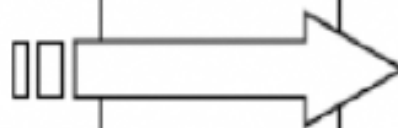
【受信校】(遠隔教育特例校)

問寒別中学校（兼務校）

3年A組



B 教諭
(問寒別中学校担当教諭)



取組の実際（授業の様子）



取組の実際（授業の様子）

幌延町の遠隔合同授業 <第1学年社会>



取組の実際

北海道教育大学
へき地・小規模校
教育研究センター HUE RISE

文字の大きさ 拡大 縮小 標準 配色 青 黄 黒 標準 Google 提供 検索 サイトマップ

English

センター紹介 教育・研究活動 動画配信・刊行誌等 フォーラム・シンポジウム・講座 日本教育大学協会 全国へき地・小規模校教育部門 全国大学へき地・小規模校教育研究会 リンク

動画配信・刊行誌等

現在位置 > へき地・小規模校教育研究センター > 動画配信・刊行誌等 > 配信動画

配信動画
複式指導の手引き

学習指導・複式指導・少人数学級経営・生徒指導に関する内容

- ・ [【令和5年7月27日配信】【へき研センター 教員研修用オンデマンド映像23】中学校の免許外教科担任をサポートする遠隔教育特例校制度～北海道幌延町の遠隔授業の取組\(2\)～](#)
- ・ [【令和5年7月27日配信】【へき研センター 教員研修用オンデマンド映像22】中学校の免許外教科担任をサポートする遠隔教育特例校制度～北海道幌延町の遠隔授業の取組\(1\)～](#)

<https://www.youtube.com/watch?v=AaW99wXdht8>

取組の成果と課題

【受信校（問寒別中学校）の教職員】

- 生徒が、専門の教員による授業を受けられる。
- 英語科では、コミュニケーション活動が充実している。
- 社会科では、配信側の画面共有等の工夫により、対面授業と同様の授業が行われ、生徒が配信側の教員に質問できる。
- 免許外（専門外）の教員は、授業準備の負担が軽減される。

取組の成果と課題

【受信校（問寒別中学校）の生徒】

- 配信側の生徒と一緒に楽しく授業を受けられる。
- 対面での合同学習だけでなく、配信側の生徒と交流できる。
- 遠隔で授業を受けられるのはよいが、英語の授業は対面の方がやりやすい。
- ▲ 音がずれて聞きづらいことがある。
- ▲ ICT機器等の調子が悪いと、先生の声が止まったり、受信側から話しても、配信側に声が届いていなかったりすることがある。

取組の成果と課題

【配信校（幌延中学校）の教職員】

- 受信側、配信側の生徒同士で遠隔でのコミュニケーションの方法を工夫するなど、情報活用能力の育成につながっている。
- 遠隔授業と対面授業との負担感の差はほとんどない。
- 遠隔授業は、町内の子どもたちの学習活動の充実につながっている。

取組の成果と課題

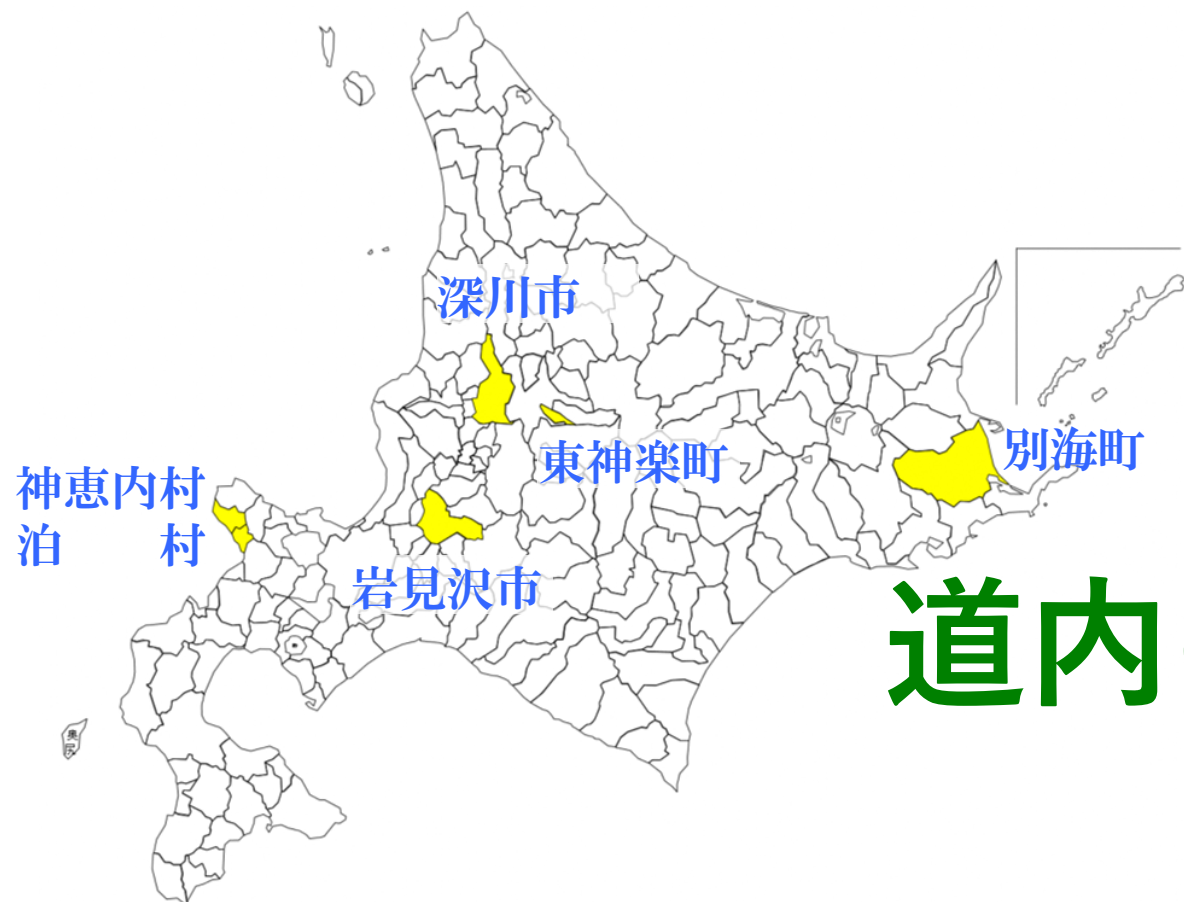
【配信校（幌延中学校）の生徒】

- 問寒別中学校の生徒は教室にいないが、対面授業と同様にグループ活動ができ、教え合えるのがよい。
- 同じ授業を受けられ、配信側の生徒と意見の交流ができるので、学習意欲が高まる。
- 日常的に遠隔授業を受けているため、対面授業のときも話しやすくてよい。

取組の成果と課題

【受信校（問寒別中学校）の保護者等】

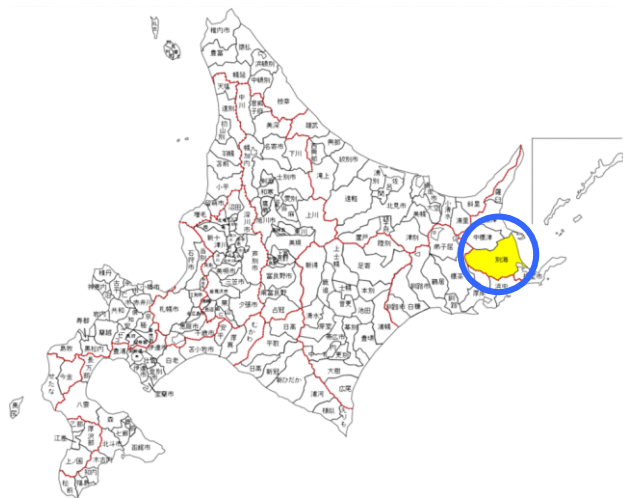
- 学校運営協議会等において、保護者から、「専門の教員による授業を受けられるなど、子どもの教育環境及び活動が充実している」など、肯定的な意見が寄せられている。



道内の市町村の実践

同町内における小規模校同士の取組

町の事業 (生きる力アッププロジェクト) の一環として推進



別海町



西春別小学校
第5学年3名 第6学年4名



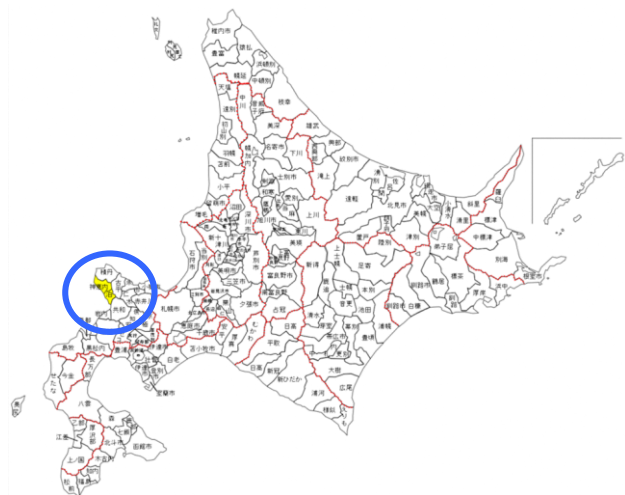
上風連小学校
第5学年6名 第6学年5名

教科：算数

共に学ぶ児童数の増加
→子ども同士が多様な考え方に触れ
学びの深まりを実感

近隣村間における小規模校同士の取組

2村教育委員会が**教育連携に関する協定**を締結



神恵内小学校
児童数 23名



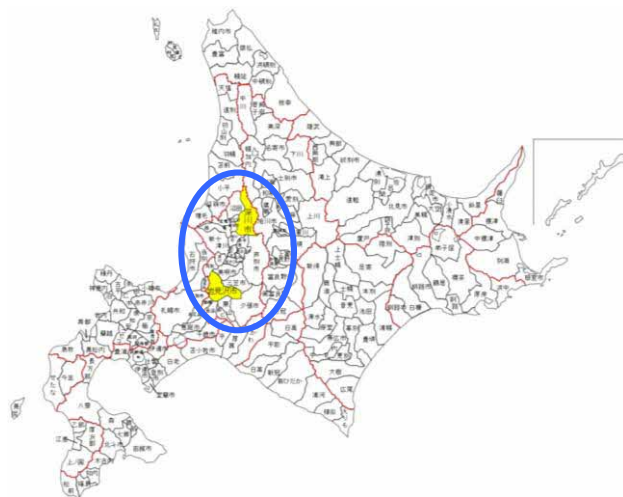
泊小学校
児童数 47名

教科：国語、道徳等

考えを伝え合う活動の充実
→他者への主体的な関わり
→新たな人間関係の構築

他市間における小規模校同士の取組

市教育研究所が調査事業として企画・運営



空知エリア



深川市立多度志小学校
第5学年 2名



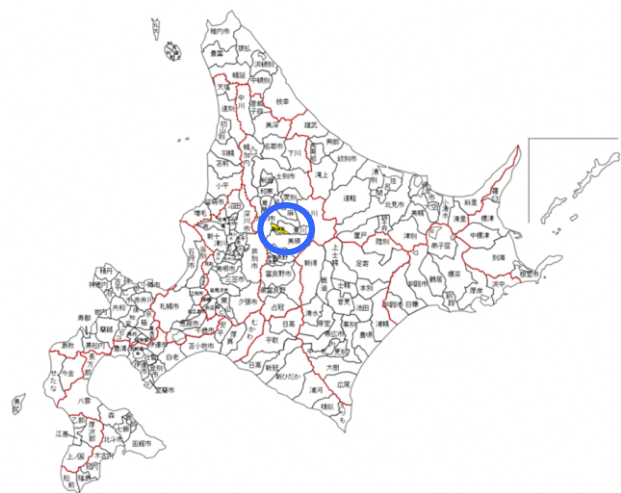
岩見沢市立メープル小学校
第5学年 5名

教科：道徳

対話的な学びの充実
→ 考えの広がり
→ 相手意識をした発表

同町内における中学校と小学校の取組

教育委員会を中心とした**小中一貫教育**の推進



東神楽町



教科：算数、外国語



東聖小学校
第5・6学年 各2学級

中学校教員
遠隔授業



中学校教員による乗り入れ授業

東神楽中学校



東神楽小学校
第5・6学年 各1学級

中学校教員
遠隔授業



志比内小学校
第5・6学年 2名

小規模校

遠隔
合同授業

コミュニケーション機会の増加
→学習意欲の向上
→中学校進学への不安解消

課題

- 日程・教科・学習進度の調整、事前の打合せ
- 遠隔学習を希望する学校（道内・道外）の情報収集 など

取組

○ 英語教育推進事業（道事業）

他エリアの事業指定校の児童生徒が外国語でコミュニケーションを図る授業の実施

○ コミュニティサイトの開設

遠隔交流を希望する学校がサイトに登録し、条件に合う学校をマッチング

